

人材育成について

小川 正人



〔質問〕人材育成も市の

大事な責務だと考えている。今年も4月になれば新入職員が入庁してくるが、その職員の能力を最大限に引き出すことが必要である。

市政を推進していく上で、欠かすことのできない人材であり、そのような人材を育てるために欠かすことのできないものが教育である。民間の考えを取り入れた教育も必要と思うが、現職員も含めて、市長はどのような教育の方法を考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】職員の人材育成については、職員一人一人の個性を生かし

ながら、その能力を最大限に発揮することができよう、効果的な教育研修を行なっている。

今後、民間企業の柔軟な発想や「コスト意識」などを取り入れた研修と公務員としての研修をバランスよく組み合わせた人材育成に取り組んでいく。

◎防災対策について

〔質問〕現在、市の職員は347名であり、そのうち68名、19.6%は、平成23年の震災時は職員ではなく、震災対応の経験がない。

仙台市では、退職職員による震災時の体験談の講演なども行なっているが、震災対応の経験がない職員に対し、どのような災害対応の教育を考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】東日本大震災から間もなく8年を迎えるが、当時の状況を知らない若手職員も確かに多くなってきた。

〔質問〕震災時に備えて、緊急車両等のガソリンを常に満タンにするような対策を職員に周知する必要があると考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】日頃から満量近くの給油を心がけてはいるが、改めて災害応急対策車両として、危機管理課、建設課、農林課、上下水道事業所などの公用車、合計16台の指定と心がけについて、再度周知していきたい。

◎その他の質問
◎財政について

平成31年度施政方針について

佐藤 龍彦



〔質問〕施政方針における「確かな学力の育成」とは何を意味しているのか伺う。

〔答弁〕【市長】将来の夢、希望を実現していく上で、学力は絶対に必要と考えている。

このことから、知識や技能の他、学ぶ意欲や課題を見つけ主体的に判断・行動し、より多くの問題を解決する資質や能力、これらを含めた総合的な学力を「確かな学力」として捉えているものである。

◎置き勉について

〔質問〕「置き勉」とは、置き勉強道具の略語のことで、登下校時の荷物を軽くするために、児童・生徒が教科書な

どを教室に置いて帰ることを言う。

脱ゆとり教育への方向転換後、教科書の大判化、ページ数の増加が進み、ランドセルや通学かばんの重さが子どもの発育や健康に影響を及ぼす可能性があるという問題視されている。

〔答弁〕【教育長】重さについての児童・生徒の感じ方には個人差があると理解している。

現状において、各学校からは過重な負担にはならない旨の報告を受けており、今後も適切に対応していきたい。

◎放射能汚染廃棄物

〔質問〕本市は、今後、子どもたちのランドセル、通学用かばんの重さを調査したが、小学校低学年は平均で3.4キロ、中学年は4.0キロ、高学年は4.7キロであったことから、個人差はあるが、おおむね適切な重さとして配慮されているものと認識している。

◎地域支えあいによる「なまこ」について

〔質問〕本市は、今後、子どもたちに指導しているのか。